

地域に開かれたコミュニティ・スクール

桃井小学校（群馬県前橋市）

本事例のキーワード

複合化

地域と連携

防災

小学校



事例のポイント

2校の統合を機に、学校支援協議会を設置して新校舎を複合施設として整備。新校舎は、地域コミュニティの核として機能するとともに地域の防災拠点としての役割も果たしている。

事例概要

桃井小学校は、明治5年に群馬県初として開校した小学校が前身となっており、県内で最も歴史の深い学校である。平成28年、少子化の進行に伴い児童数が減少したことから、昭和32年にかつての桃井小学校から分離独立をした中央小学校を、約40年ぶりに再統合することとなった。

保護者や地域住民等の学校運営への参画を図り、教育活動の充実を図るため、統合を機に桃井小学校に学校支援協議会が設置され、前橋版コミュニティ・スクールとして市で初めて指定された。これを受けて、新校舎は、地域のコミュニティーセンターや消防団の詰所、放課後児童クラブ、通級指導教室（学外の児童も通う）を含めた複合施設として整備された。また、学校敷地に隣接して私立の認定こども園が整備されたことから、小学校の児童だけでなく、0歳児から高齢者までの多世代が日常的に交流しながら学ぶことができる複合的なコミュニティエリアを形成することとなった。

その他、新校舎の整備にあわせて、防災倉庫やマンホールトイレなどを新たに整備するとともに、災害発生時の避難所利用及び学校施設利用のあり方をあらかじめ整理した利用計画を策定しており、地域防災の拠点としての役割も果たしている。

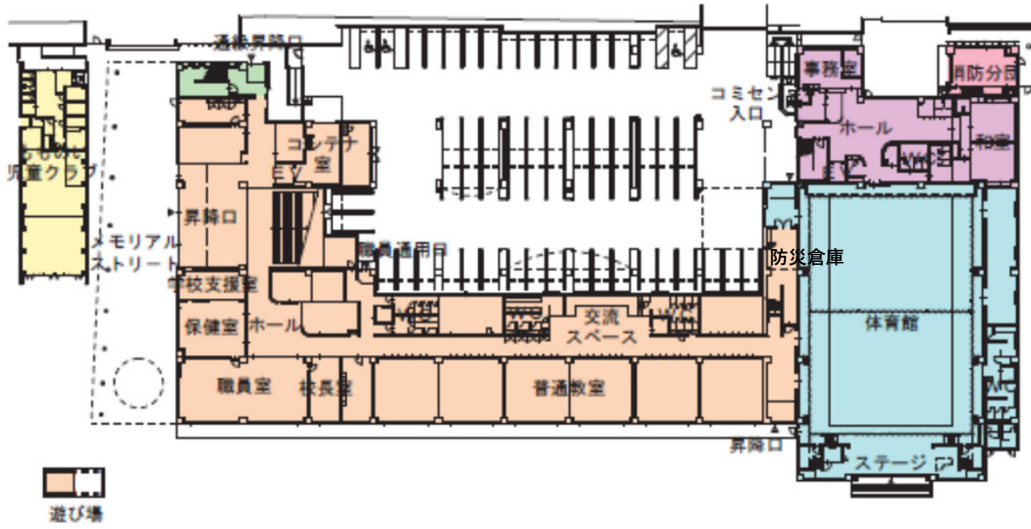


施設の配置

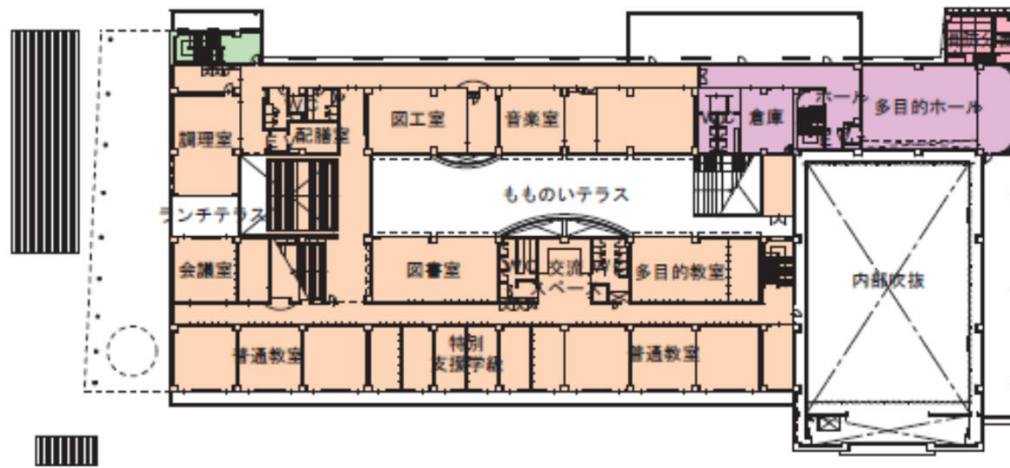
凡例

学校	校舎
	体育館
	通級指導教室
コミュニティセンター	
消防分団	
駐車場・駐輪場	
放課後児童クラブ (もものい児童クラブ)	

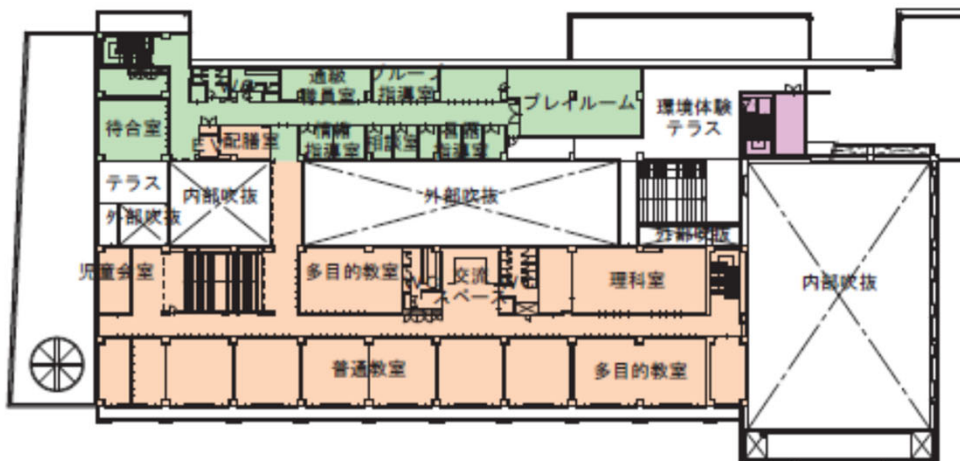
< 1 階平面図 >



< 2 階平面図 >



< 3 階平面図 >



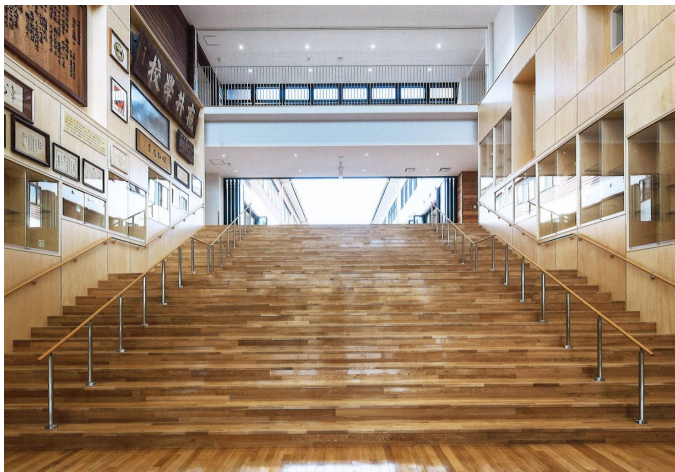
事例ポイント 1

地域の教育力を学校の中にとりこむ

昇降口の正面から2階に続く幅10メートルの大階段は、図書室前の読み聞かせスペースとして使えたり、学習発表会や演奏会の会場として使われたり、子どもたちの移動動線としての機能だけではなく様々な活動や学びに使える多用途な空間となっている。

大階段を上った先にはデッキ仕上げの半屋外空間「もものいテラス」があり、もものいテラスを囲んで各特別教室が配置されている。もものいテラスは、周囲のガラス間仕切りをオープンにすると、特別教室とつながり一体的な利用が可能であり、学校公開や各種交流行事において、柔軟に利用されている。地域に開かれたコミュニティ・スクール実現のため、特別教室は理科室を除いて全て地域開放が可能なエリアとなっており、コミュニティセンターからアクセスしやすいように配置されている。

前橋版コミュニティ・スクールの指定を受けて設置された学校支援協議会（令和5年度より学校運営協議会）は、複合施設の特性を生かし、図工室での親子工作教室、夏休みの絵画教室、家庭科室での地元野菜を使った料理教室など、様々な活動を展開している。学習だけではなく、登下校は交通指導員が、放課後の活動は遊び場指導員がサポートするなど、多くの地域住民が様々な形で桃井小学校と子どもの学びを支えている。



玄関ホールと大階段
(様々な活動や学びに活用されている)



学校公開の様子
(もものいテラスでの合唱発表)



交通指導員による朝の登校指導の様子



放課後、遊び場指導員と遊ぶ子どもたちの様子

事例ポイント 2

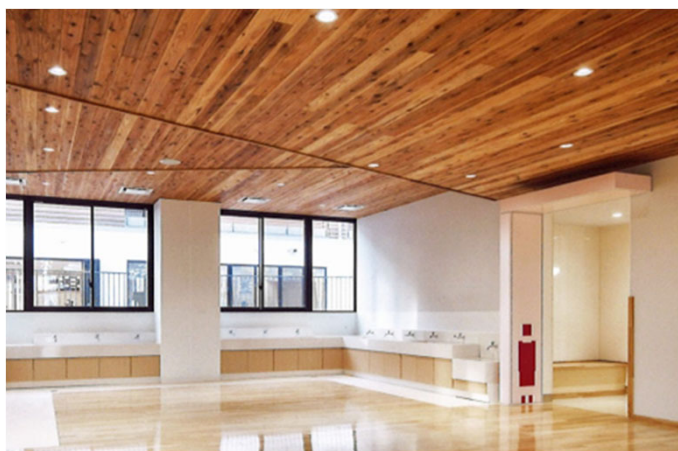
地域の防災拠点として必要な機能の確保

前橋市では、学校施設を計画する際、学校に必要な機能については教育委員会を中心に検討を進めているが、防災機能について検討する際には、防災倉庫の位置、トイレの仕様（和式/洋式）、バリアフリー化等について、防災部局等とも連携して検討を進めている。

桃井小学校では、体育館はコミュニティセンターとともに、発災後、初動時から避難生活を送るための居住スペースとして使われるため、防災倉庫や災害時特設公衆電話のモジュージャックを設けるとともに、床には、避難生活時の身体の負担を軽減するため、クッション性のある素材を採用している。さらに、体育館内部に、多目的トイレを含むバリアフリー対応したトイレを整備するとともに、外部から使用できるトイレを設置し、その付近には簡易トイレ設置用のマンホールを配置するなど、体育館に避難所として必要となる機能を集約して整備している。

また、前橋市では、市立小中学校のすべてを避難所に指定するとともに、全ての避難所について災害時の避難所機能の配置を図示した「避難所配置図」（学校施設の利用計画）を作成しており、避難所開設期間に応じて避難所としての利用箇所及び利用方法を整理するなど、学校の早期再開と避難所運営における適切な機能配置に配慮した利用計画を作成している。

各学校においても、1学期に 1回以上の防災訓練を実施し、初動対応、鍵の場所や防災倉庫の位置、スイッチ・水道蛇口の位置等を確認したり、地震体験や避難所開設の体験をするなど、子どもたちに体験型の防災教育を実施する等の取組も行っている。その他、関係自治会（自主防災会）の自主防災訓練において、避難先となる桃井小学校の避難所配置図を確認するなど、地域防災力の向上に向けた努力が継続されている。



全てのフロアに身障者用トイレを整備



体育館に隣接して設置された防災倉庫



子どもたちの地震体験の様子



子どもたちによる避難所開設の体験

学校概要

桃井小学校
群馬県前橋市

全体工期：平成28年6月～平成30年3月

学校規模：18学級、406人

敷地面積：16,071m²

保有面積：9,987m²

構造：RC造（一部S造）3階建

※令和5年4月時点